

第2回振興計画審議会 令和2年12月7日（月）13：30～

1. 第1回審議会のご意見について（報告）
2. 改訂第4次総合計画効果検証について（報告）
3. 意見交換

1. 第1回審議会のご意見について(報告)

- ・第1回審議会でもいただいたご意見に対する事務局の対応方針の考え方について、概要を報告します。
- ・内容について、取りこぼしがないかなどをご確認いただき、気付いた点等ありましたらご意見をいただきます。

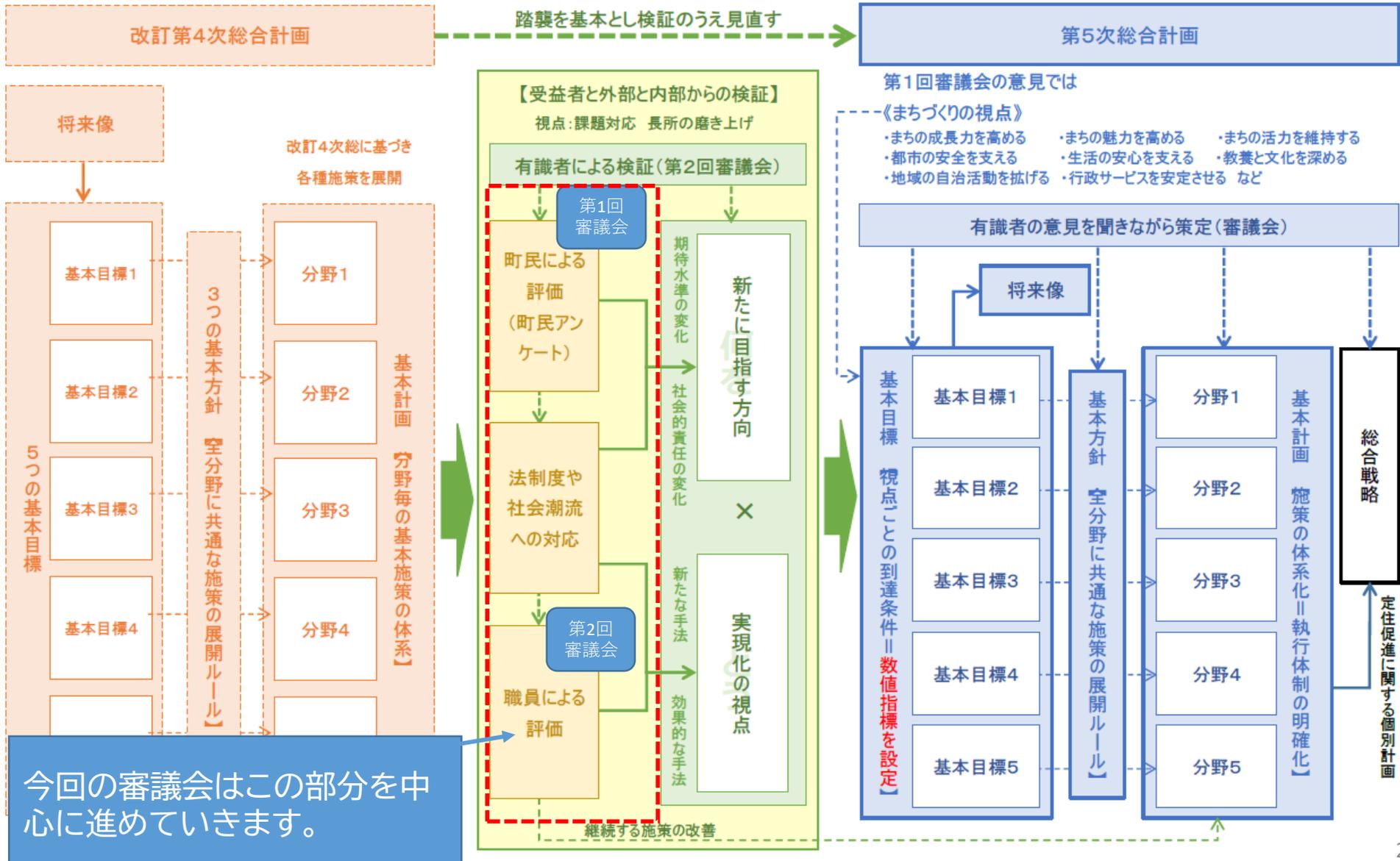
2. 改訂第4次総合計画効果検証について(報告)

- ・職員による現行計画の検証結果の概要を報告します。
- ・第1回審議会でも提示した、アンケート結果から抽出した課題等に関する現行施策と良好な結果が得られ磨き上げしたい施策を報告します。
- ・これらについて「3. 意見交換」の際にご意見をいただきたいと思います。

3. 意見交換

- ・上記2に関してご意見をいただきます。

「改訂4次総」から「5次総」への見直しの流れ



1) 第1回審議会のご意見について（報告）

【別紙1】

第1回審議会の内容及び意見のまとめ

- 定住意向は93%と非常に高い（町民アンケート）
- 生活環境の満足度も上昇している（町民アンケート）
- 人口も社人研推計と大きく乖離して増加（現況）
- 庁内での効果検証も概ね良好（効果検証）
- 人口増への対応が必要（審議会意見）
- 事業にメリハリをつけ、目玉となるような政策を（審議会意見）

継続

方向性は間違っておらず、基本的に「**継続**」とする

長所の磨き上げ

長所を伸ばすような政策、**目玉**となるような政策

課題対応

満足度は高いが**人口増への対応**などの課題

課題対応

人口増の対応について

- 人口13,500人を目標として40年以上町政を進めてきた。
- 第5次総合計画期間で、達成する見込みが高くなった。
- しかしながら、民間の開発が急速に進めば、人口増に行政サービスが追い付かなくなってしまう。
- 子育てや教育関係では、飽和状態となっているものもある。
- **第5次総合計画では、人口増の対応を重点策の一つに進めていく。**

2) 改訂第4次総合計画効果検証について（報告）

【詳細は別紙2にあります】

改訂第4次総合計画の検証について

① 計画期間中の総人口の推移（住民基本台帳：基準日4月1日：人）

改訂第4次早島町総合計画の計画期間

年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
総人口	12,306	12,291	12,222	12,224	12,214	12,249	12,287	12,379	12,484	12,588	12,637

目標人口12,500人を2年前倒して達成 

② 各種施策の検証（内部評価）

- ・職員により28の基本施策を指標を用いて評価

②について第2回審議会で報告します。
(①③は第1回審議会で報告済)

③ アンケート（R1）結果（外部評価）

（1）定住意向の推移

年度	H22	H28	R1
定住意向	86%	89%	93%

非常に高い定住意向

（2）基本28施策に対する満足度

②庁内での効果検証結果（内部評価）

基本目標	◎ (1% - 1点)	○ (1% - 0.75点)	△ (1% - 0.5点)	× (1% - 0点)	把握できず	合計 指標数	評価点数 (満点100)
基本目標 1 潤いと活力が暮らしを彩るくつろぎのまち	9 (34.6%)	3 (11.5%)	5 (19.2%)	5 (19.2%)	4 (15.4%)	26	52.9
基本目標 2 都市の機能と人のつながりが安全と安心を支えるまち	11 (50.0%)	5 (22.7%)	3 (13.6%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	22	73.9
基本目標 3 地域とともに学び育む次代を担う人づくりのまち	5 (27.8%)	9 (50.0%)	3 (16.7%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	18	73.6
基本目標 4 心豊かにいきいきと暮らせるやすらぎのまち	8 (44.4%)	3 (16.7%)	5 (27.8%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	18	70.8
基本目標 5 町民とともにつくる開かれたまち	10 (58.8%)	5 (29.4%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	17	83.8
全 体	43 (42.6%)	25 (24.8%)	17 (16.8%)	8 (7.9%)	8 (7.9%)	101	71.0

- 全体をみると評価点数は71点、◎と○を合わせた割合は、約7割となっており、**概ね堅調に推移**していた。
- 基本目標5については、評価点数は約84点とほぼ全てが◎か○であり、非常に良好であった。
- 指標の中には、把握できないものが8個あったことから指標の見直しの必要がある。
- 基本目標1については、相対的に評価点数が低く、**×と△の指標については、何らかの見直しの必要**がある。（次期基本計画策定時に実施予定）

評価の目安 [◎]達成の見込み (80%以上) [○]達成に向けて進んでいる (50~80%)
[△]達成は困難 (50%未満) [×]達成は不可能

基本目標1における見直しが必要となる指標

基本目標	△又は×となった指標	評価
基本目標 1	空き家バンクへの物件登録数	△
	事業所数	△
	流通関連企業交流会の延べ参加企業数	△
	小売業の年間商品販売額	△
	認定農業者数	△
	住宅などの建築着工数	×
	日用品などを扱う小売業の事業所数	×
	小売業・飲食店の事業所数	×
	早島町の事務・事業における二酸化炭素総排出量	×
	町内のごみ排出量	×

把握ができなかった指標
子ども・子育てする親・高齢者の公園利用に関する満足度
外で遊ぶ子どもの割合
まちなかに自然を感じる人の割合
町内の森林面積

検証結果は全体としては概ね堅調でしたが、個々の指標に関しては何らかの見直しが必要となるものもありました。
(次期基本計画素案策定時に行います)

※詳細は資料2に記載しています

③ アンケートの満足度指数 (外部評価)

第1回審議会資料より

改訂4次総合計画 基本施策		H22→H28変化	H28→R1変化	アンケート回答項目	H22満足度	H28満足度	R1満足度	
基本目標	基本施策							
潤いと活力が暮らしを彩るくつろぎのまち	11	良好な定住環境の形成	0.08	0.04	日常の交通の便	3.03	3.04	3.07
					日常の買い物の便	2.85	3	3.05
	12	公園・広場の充実	▲0.30	0.15	公園や緑地の整備状況	3.43	3.13	3.28
	13	雇用環境の向上	0.03	0.21	町での就業の場	2.51	2.54	2.75
	14	流通産業の振興	0.03	0.21	町での就業の場 (再掲)	2.51	2.54	2.75
	15	商業・観光の活性化	0.15	0.05	日常の買い物の便	2.85	3	3.05
	16	営農環境の維持	0.03	0.21	町での就業の場 (再掲)	2.51	2.54	2.75
	17	環境保全・美化の推進	▲0.22	0.2	公害(騒音・振動・悪臭など)への対策 ごみ収集の状況	3.13 3.95	2.87 3.77	3.12 3.91
安心を支えるまち	21	適正な土地利用の展開	▲0.21	0.12	公園や緑地の整備状況 (再掲)	3.43	3.13	3.28
	22	都市基盤の整備	▲0.37	0.06	地震・火災など災害からの安全	3.2	2.84	3.17
	23	災害の備えの充実	▲0.11	0.08	地震・火災など災害からの安全 (再掲)	3.2	3.09	3.17
	24	交通安全対策の充実	▲0.33	0.03	道路・交通の安全	3.22	2.89	2.92
	25	防犯対策の推進	▲0.08	0.19	犯罪・風紀などの安全	3.22	3.14	3.33
	26	消費者の安心支援	▲0.08	0.19	犯罪・風紀などの安全 (再掲)	3.22	3.14	3.33
うらぐりのまち	31	学校教育の充実	▲0.14	0.3	子どもの教育施設	3.38	3.24	3.54
	32	社会教育の充実	▲0.15	0.29	教養を高める機会	3.26	3.11	3.4
	33	文化・芸術の振興	▲0.16	0.26	教養を高める機会 (再掲)	3.26	3.11	3.4
	34	地域資源の保全・活用	▲0.26	0.17	芸術・文化活動の場や機会	3.44	3.28	3.5
	35	スポーツ・レクリエーションの振興	▲0.19	0.25	観光PRなどの情報発信、町外との交流の場 スポーツ、レクリエーション活動の場や機会	3.04 3.41	2.78 3.22	2.95 3.47
暮らし豊かにいきいきと暮らせるまち	41	地域の保健・医療・福祉の推進	0.02	0.13	病気やけがの時の医療機関	3.35	3.46	3.52
					生活習慣病予防などの保健の取組み	3.31	3.24	3.44
	42	子育て支援の充実	▲0.13	0.3	保育サービスなどの子育て環境	3.23	3.19	3.56
					子どもの遊び場の整備状況	3.07	2.84	3.06
	43	高齢者福祉の充実	0.06	0.22	介護予防に向けた取組み	3.15	3.17	3.44
44	障がい者の自立支援	0.1	0.16	高齢者や障がい者への福祉サービスや施設				
45	人権擁護の推進	▲0.08	0.19	犯罪・風紀などの安全				
町民とともにつくる開かれたまち	51	住民自治の強化	▲0.08	0.16	住民参加・住民協働			
					自治会・町内会の育成、支援			
	52	公聴広報の推進	0.08	▲0.07	広報紙やホームページなどの広報			
					町政懇談会など町への要望を伝える方法			
	53	情報環境の整備	▲0.15	0.13	情報公開などの開かれた町政	3.09	3.04	3.12
54	健全な財政運営の推進			(項目なし)	3.04	2.78	2.95	
55	効率的な行政運営の推進			(項目なし)				

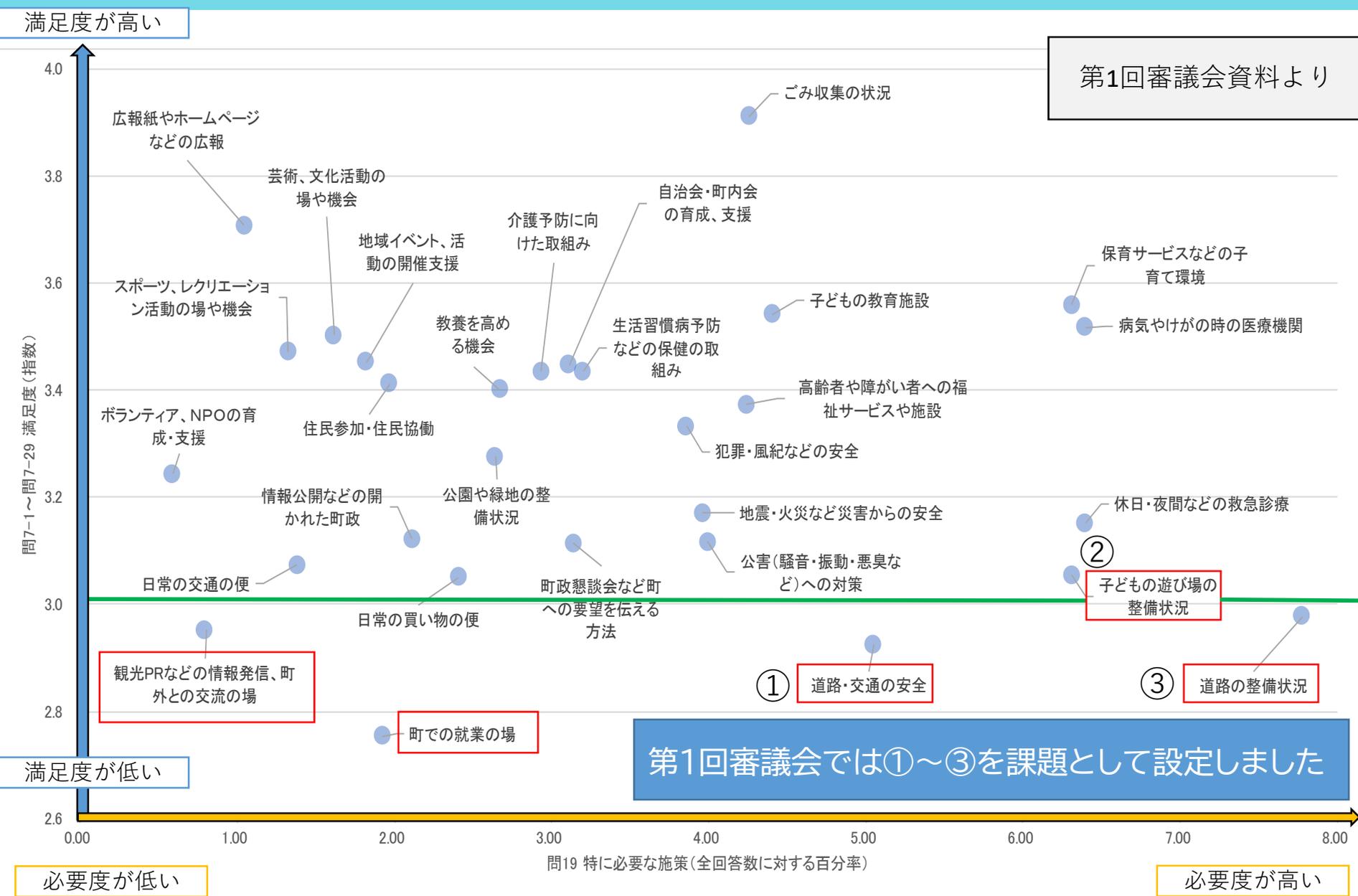
第1回審議会での町民アンケートの満足度について、再掲になります

- 基本28施策に対する満足度の推移 (H28→R1)
 上昇：25施策 減少：1施策 回答項目無い：2施策
- 改訂で重点化した施策の評価
 子育て、教育、高齢者福祉の分野において、全てで満足度が上昇

満足度・必要度の分布図

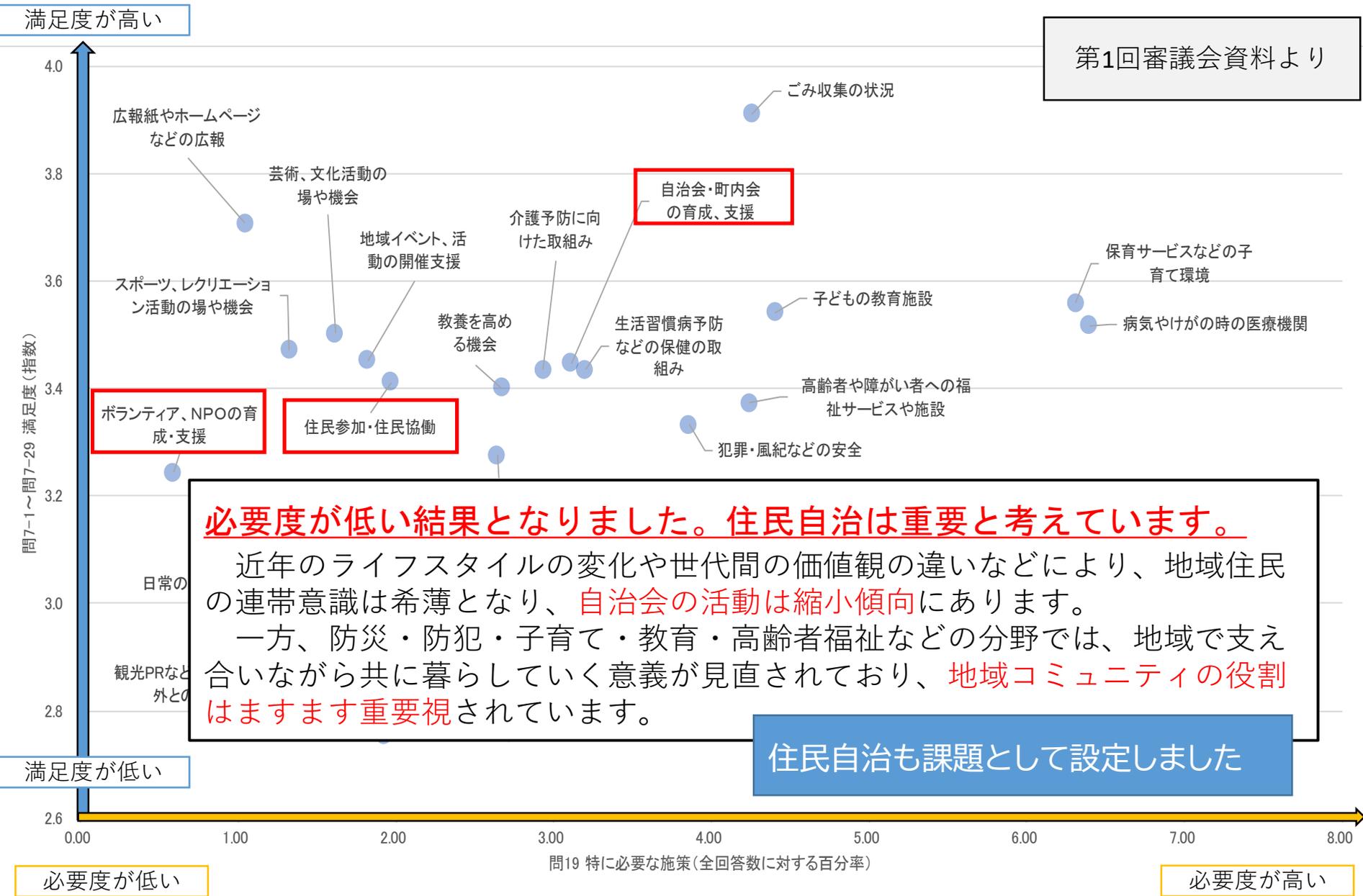
(R1町民アンケートより)

第1回審議会資料より



満足度・必要度の分布図 (R1町民アンケートより)

第1回審議会資料より



必要度が低い結果となりました。住民自治は重要と考えています。

近年のライフスタイルの変化や世代間の価値観の違いなどにより、地域住民の連帯意識は希薄となり、自治会の活動は縮小傾向にあります。

一方、防災・防犯・子育て・教育・高齢者福祉などの分野では、地域で支え合いながら共に暮らしていく意義が見直されており、地域コミュニティの役割はますます重要視されています。

住民自治も課題として設定しました

必要度が低い

必要度が高い

総合評価（内部、外部評価）

基本目標	一次評価 (満点100)	二次評価 (満点100)	総合評価 (満点200)
基本目標 1 潤いと活力が暮らしを彩るくつろぎのまち	52.9	61.6	114.5
基本目標 2 都市の機能と人のつながりが安全と安心を支えるまち	73.9	63.4	137.2
基本目標 3 地域とともに学び育む次代を担う人づくりのまち	73.6	67.5	141.1
基本目標 4 心豊かにいきいきと暮らせるやすらぎのまち	70.8	67.7	138.6
基本目標 5 町民とともにつくる開かれたまち	83.8	65.8	149.7
全 体	71.0	65.2	136.2

庁内評価と町民アンケートの満足度の点数を足したものになります。概ね堅調ですが、基本目標1が相対的に低くなっているの見直しが必要です。

- ・全体をみると総合評価は**7割近い数値**となっており**堅調**と思われる。
- ・**基本目標 1**については他の基本目標と比較すると**低くなっている**。
- ・要因としては、達成が難しい指標や把握できない指標、人口増により好ましくない方向に動いたことにより、一次評価が低くなったことが挙げられる。これらについては、**次期総合計画の基本計画部分で見直しを検討していく必要がある**。
- ・評価については、今回が初めての試みであったため比較するものがないが、この数値を基準に翌年以降の推移を確認していく必要がある。

アンケート結果から町が考える課題など

第1回審議会資料より

■評価できる点

- ・ 定住意向は93%と非常に高い
- ・ 生活環境の満足度も上昇している
- ・ 人口も社人研推計と大きく乖離して増加

第1回審議会でのアンケートの課題部分に該当する総合計画の施策の検証を次ページ以降記載しています

■課題

- ・ 道路の整備と交通安全の確保（まち中から車を排除）
- ・ 幼児（親子）や子どもの遊び場の確保（憩いと安らぎ空間の提供）
- ・ だれもが利用しやすい公共交通の整備（移動しやすいまち）
- ・ 住民自治の強化（地域で支え合いながら共に暮らす）

一定程度の満足は得られているが、
「安全・安心で、より質の高い生活環境の実現」
を求められている

施策の効果検証について

課題に関する施策

- ①道路の整備と交通安全の確保
- ②子どもの遊び場の確保
- ③利用しやすい公共交通の整備
- ④住民自治の強化
- ⑤子育て環境
- ⑥学校教育環境

第1回審議会の課題部分に関する総合計画の施策を抽出

第1回審議会で意見が多くあった子育て、学校教育に関する総合計画の施策を抽出

良好な結果が得られた施策

- ⑦流通産業の振興
- ⑧社会教育の充実

総合計画の施策の中で、良好な結果が得られた施策を抽出

①道路の整備と交通安全の確保

現状と課題

本町は広域交通の結節点という拠点性の高さを有していますが、一方で町内の通過交通が多く、歩車分離されていない道路も多く残っています。市街地への流入を防ぐ補助幹線道路や、歩行者・自転車が安全に利用できる生活道路との機能・役割分担を進める必要があります。

施策の方針

道路については、事業中の都市計画道路早島大砂線の早期完了とともに、駅前バイパス線の計画的な実施を図ります。これら幹線道路の整備による市街地へ流入する車両の抑制と併せ、市街地内の交通安全の充実を図ります。

223 幹線道路の整備

通過交通の流入を防ぐため、都市計画道路早島大砂線、駅前バイパス線の整備を進めるとともに、幹線市町村道（1級・2級）の計画を見直します。

また、地域間を効果的に結ぶ道路について、歩道などの整備を推進します。

現行計画の
関係箇所抜粋

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・都市計画道路早島大砂線の整備（県事業）については、用地買収が全て完了し、工事に着手することができた。
- ・幹線町道である町道1号線について、整備に着手した（町道1号線については歩道の整備予定）。

【今後の方向性】

- ・駅前バイパス線については、人口減少社会や公共交通への転換から、交通量の減少が予想されることから、現在計画されている幅員や道路構成について検討し、岡山県や倉敷市などと協議をしながら進めていく。

①道路の整備と交通安全の確保

224 生活道路の整備

生活に密着した道路として、歩行者・自転車が安全に通行できるよう、必要な道路施設の整備を推進します。

現行計画の
関係施策

【取組】

・道路幅員が4.0m未満の狭隘道路を歩行者の交通安全と車輛の走行性の向上を目的として道路を整備した。これにより、歩行者の交通安全と車輛の走行性の向上が図れ、十分な効果があった。

【課題】

・整備する路線によっては、道路設計、用地買収及び物件補償、工事施工と工事完了までに長期的な時間を要する。また、用地の協力が得られなかった場合は、計画していた工事が実施出来ない場合がある。

【今後の方向性】

・社会資本整備総合交付金を活用しながら、狭隘道路の整備が可能な路線においては、順次、計画的に進めていく。

道路整備前



道路整備後



①道路の整備と交通安全の確保

現状と課題

中四国有数の流通センターが立地し、国道2号や高速道路など主要幹線がある本町は、交通の要衝として通過車両が多く、町民が交通事故に巻き込まれる危険があります。実際、人身事故の発生率は県下で最も高くなっています。道路管理者や警察などと連携し危険個所の改良を進めるとともに、児童や高齢者を中心とした啓発などにより町民の交通安全意識の高揚を図る必要があります。

施策の方針

交通安全意識の高揚に向けて、警察・交通安全協会やPTAなどの関係団体・町や教育委員会が連携し、啓発を進めます。
また、児童生徒らに対して安全な交通環境を確保するため、各機関が連携して交通危険箇所の把握に努めるとともに、交通安全施設の適切な維持管理を進めます。

現行計画の
関係個所抜粋

241 交通安全運動の推進

町民の交通マナー向上を図るため、町内の交通安全関係団体や倉敷警察署と連携を図り、各種啓発事業を実施します。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

・倉敷交通安全協会早島支部、倉敷警察署、PTA等の協力を得て、春秋の交通安全県民運動期間中に啓発活動を実施した。交通量の多い箇所で実施できたため、多くのドライバーに対し啓発を行うことができた。

【課題】

・通過交通が多い現状から啓発対象者が多数にわたり、啓発意識を継続して持ってもらうための活動が難しい。

【今後の方向性】

・不特定多数を対象とした街頭啓発活動に加え、町民を対象とした家庭からの啓発を進めたい。

①道路の整備と交通安全の確保

242 交通事故の未然防止

交通評議員、学校園、PTAなどから交通危険個所の把握をすすめ、通学路をはじめとする生活道路を中心に安全対策を進めます。また、効果的な交通安全対策について、倉敷警察署など関係機関とも連携を進めます。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・ 町内のカーブミラーの全数点検（500か所）を初めて行い、不良箇所等を把握した。
- ・ 全てのカーブミラーを点検したことで、修繕等の計画を立てやすくなり、優先順位のつけかたも明確化できた。
- ・ 今回の確認でカーブミラーを段階で状態を分け、交換の優先順位をつけることができた。

【課題】

修繕を行った方がよい箇所が多く、単年での更新は難しいため、複数年をかけて計画的に更新を行わなければならない。

【今後の方向性】

- ・ 全ての交通安全設備について定期的に点検を行い、計画的な更新サイクルを計画する。

カーブミラー交換前



カーブミラー交換後



①道路の整備と交通安全の確保

現状と課題

中四国有数の流通センターが立地し、国道2号や高速道路など主要幹線がある本町は、交通の要衝として通過車両が多く、町民が交通事故に巻き込まれる危険があります。実際、人身事故の発生率は県下で最も高くなっています。道路管理者や警察などと連携し危険個所の改良を進めるとともに、児童や高齢者を中心とした啓発などにより町民の交通安全意識の高揚を図る必要があります。

施策の方針

交通安全意識の高揚に向けて、警察・交通安全協会やPTAなどの関係団体・町や教育委員会が連携し、啓発を進めます。
また、児童生徒らに対して安全な交通環境を確保するため、各機関が連携して交通危険箇所の把握に努めるとともに、交通安全施設の適切な維持管理を進めます。

243 学校園での交通安全教育の推進

保育園、幼稚園、小中学校と連携し、児童生徒らが交通ルールを習得するための交通安全教室を実施します。

現行計画の
関係個所抜粋

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

・交通安全教室を年間計画に位置付けて実施しており、発達段階に応じて横断歩道の渡り方や自転車の乗り方、交通ルール、マナーなどについて学んでいる。これにより、登下校時の安全確認の徹底や自転車のマナーの向上など安全意識の向上につながっている。

【今後の方向性】

・自らが交通ルールを守ることができるよう教育することに加え、他人に起因する事故に巻き込まれる危険性も認識できるような教育方法を考えたい。
・通学路安全点検を今後も継続的に行い、道路事情の変化に対応したり、校区内の登下校の状態を把握し、児童生徒が安全に過ごせるよう指導を推進していく。

①道路の整備と交通安全の確保

244 交通安全施設の整備

通学路をはじめとする生活道路を中心に交通安全施設の設置や道路改良などを道路管理者及び警察と連携して実施します。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・早島町通学路交通安全プログラムに基づき、年1回、学校教育課、総務課、学校、道路管理者（県・町）、警察による合同点検を実施した。
- ・合同点検により、対策が必要な箇所に応じて、ソフト対策やハード対策の具体的な実施内容を検討することが出来た。長期的な対応が必要な箇所もあるが、計画的に実施していくなかで交通安全対策として一定の効果はあった。

【今後の方向性】

継続的に通学路をはじめとする生活道路の安全を確保するため、引き続き、合同点検を実施していくことで対策実施後の効果を把握し対策の改善・充実を図る。

通学路点検



対策前



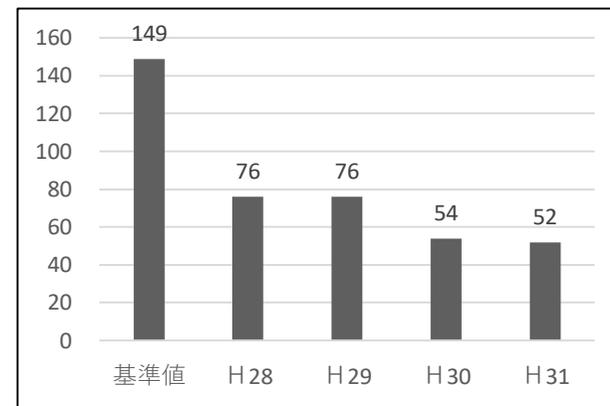
対策後



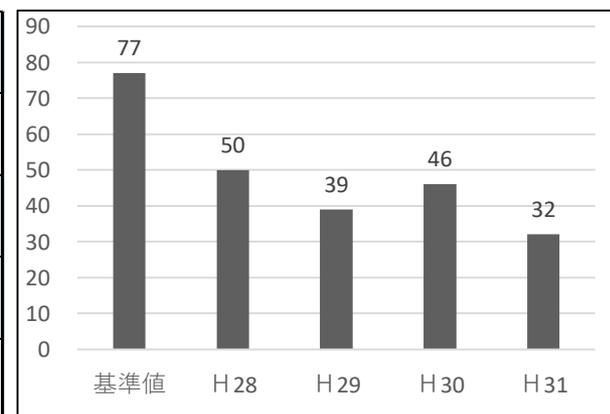
①道路の整備と交通安全の確保

■関連指標

データの名称(単位)【実績値(年度)】		望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考				
人身交通事故の1万人当たりの事故件数(件)【147(H24)→149(H25)】		減少	岡山県交通年鑑		交通年鑑は年度ではなく年単位				
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30	H31			評価
149			76	76	54	52			◎



データの名称(単位)【実績値(年度)】		望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考				
町民による人身交通事故件数(件)【115(H24)→77(H25)】		減少	岡山県交通年鑑		交通年鑑は年度ではなく年単位である				
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		評価
77			50	39	46	32	—		◎



②子どもの遊び場の確保

現状と課題

本町における町民一人当たりの都市公園面積は39㎡（緑地を除くと22㎡）であり、基準（10㎡）を上回っているものの、決して利用者は多くなく、生活の中で十分活用されているとは言えない状況です。また、民間開発による広場は位置・形状に問題のあることが多く、これも利用の妨げとなっています。

利用を促進するためには、公園に求められる機能・目的・役割を明確にし、利用者の満足度を高め、憩いとやすらぎの空間を確保するとともに、地域活動でも活用できる空間としていく必要があります。

施策の方針

町外から広く人を集める視点ではなく、より生活に密着した日常の中で利用しやすい公園・緑地とすることで、憩いとやすらぎ、活動の空間の確保を目指します。

また、公園の数を増やすのではなく、目的の特化や機能の付加などによる既存ストックの活用を重視しながら、既存の公園・広場についてメンテナンスを行い安全の確保に努めます。

121 既存の広場の活用

身近にある既存の広場について、幼児（親子）や子ども、高齢者など各世代のニーズを踏まえ、目的や機能を特化・充実させることにより、ストックの活用を図るとともに、地域活動の場となるよう利用の促進を図ります。

【取組】

- ・自治会等のニーズを反映するため、自治会又は町内会に対し、早島町子ども広場等整備費補助金交付要綱により遊具等の維持、管理について補助を実施した。
- ・補助金利用実績 H29：4箇所（遊具塗装、転落防止策設置等） H30：申請なし R1：3箇所（ブランコ修理、ベンチ更新等）

【今後の方向性】

- ・引き続き予算を確保し、自治会への遊具等の整備補助を実施していく。
- ・引き続き、維持管理を行い利用促進を促す。

現行計画の
関係箇所抜粋

現行計画の
関係施策抜粋

②子どもの遊び場の確保

122 都市公園の整備

都市公園については、町民共有の憩いの場として、また緊急時の避難場所として利用できるよう、求められる機能の整備を図るとともに、定期的な点検により適正な維持管理を行います。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・利用者が安全に利用できるよう職員により遊具の安全点検を実施していたが、より安全性を高めるため平成30年度より大型遊具については専門業者による点検を実施している。
- ・安全点検の結果を踏まえ、安全が確保できず入れ替え等が必要な大型遊具については、使用禁止の張り紙で注意喚起を促し、利用者の事故につながらないようにしている。

【今後の方向性】

- ・遊具の老朽化や設置基準変更等に伴い、大型遊具の入れ替え等の検討が必要。
- ・公園施設長寿命化計画を策定し、今後の遊具の在り方も含め検討を進めていく。

123 身近な緑地の確保

公園や広場の植栽は、景観上の潤いを与えると同時に、身近に自然を感じることでできる貴重な緑であることから、場所に合った積極的な緑化を図ります。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

緑の募金事業等を活用し、緑化を推進している。

緑化実績 H26：早島公園・山川池親水公園 サツキ植樹 H27：みはらしの丘 桜植樹
H28：早島保育園 あせび植樹 いかしの舎 桜・シャシャンボ・メグスリノキ植樹
H29：山川池親水公園 サツキ植樹
H30：早島駅前 緑化活動 ふれあいの森公園 セイヨウカナメ植樹
R1：ふれあいの森公園 セイヨウカナメ植樹

【今後の方向性】

引き続き緑化を推進していく。

③利用しやすい公共交通の整備

現状と課題

駅前には公共交通の結節点でありながら集客・利便施設が少なく、逆に北部地域の施設には自家用車がないとアクセスしづらいという地域ごとの特性があります。

今後は、公共交通機関の利便性や歩行者動線の安全確保など、高齢になっても車に依存しない円滑に移動できる環境を作るとともに、さまざまな暮らし方にマッチした住まいが町内で選べる「住み替えながら暮らし続けられるまち」への転換を図っていく必要があります。

施策の方針

居住環境はコミュニティ形成、福祉、防災、環境、歴史・文化、景観など幅広い分野と関連していることから、これらと一体に総合的な施策展開を進め、誰もが住み続けたいと思うまちを目指します。

町内の空き家の活用システムや交通施設のバリアフリー化など、暮らしの安心を支える制度や設備の充実を図ります。

114 公共交通機関の利便性の向上

早島駅のバリアフリー化に向けた協議を進めるとともに、駐車場・駐輪場の確保など駅周辺における交通利便性の向上に努めます。

また、コミュニティバスのさらなる利用促進により運行の継続を図るとともに、町外主要地域との公共交通ネットワークのあり方を検討します。



現行計画の
関係箇所抜粋

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・早島駅のバリアフリー化に向けて検討を進めた。
- ・町外移動の際のタクシー運賃助成（70歳以上の町民1回あたり500円の助成）を実施した。
- ・自転車利用者の増加を受け、早島駅西側と北側へ新たな駐輪場を整備したほか駅東側露天駐輪場へ屋根の設置をした。

【課題】

- ・早島駅のバリアフリー化には多額の予算が必要となる。

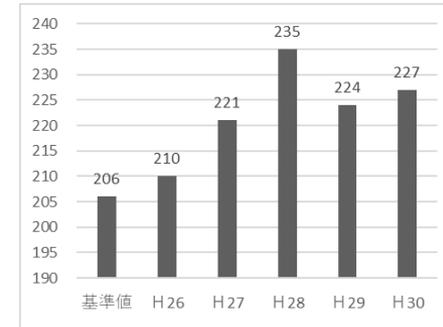
【今後の方向性】

- ・早島駅のバリアフリー化の実施に向け、関係機関と協議を進めていく。
- ・コミュニティバスについては、今後も交通弱者の移動ニーズに応じた交通の在り方を検討していく。

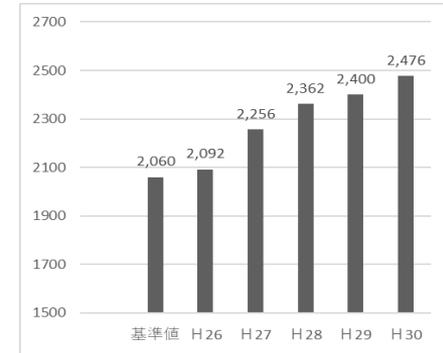
③利用しやすい公共交通の整備

■関連指標

データの名称(単位)【実績値(年度)】						望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考
コミュニティバスの利用者数(人/日)【204(H24)→206(H25)】						増加			
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30				評価
206	210	221	235	224	227				◎



データの名称(単位)【実績値(年度)】						望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考
早島駅乗降客数(人/日)【2,046(H24)→2,060(H25)】						増加	JR西日本岡山支社		
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30				評価
2,060	2,092	2,256	2,362	2,400	2,476				◎



④住民自治の強化

現状と課題

本町の自治会は班や組などから構成され、子ども会や老人会などの団体も組織されています。また各種行政委員も自治会ごとに任命しており、自治会は本町における住民自治の根本となっています。

しかし、近年のライフスタイルの変化や世代間の価値観の違いなどにより、地域住民の連帯意識は希薄となり、自治会の活動は縮小傾向にあります。一方、防災・防犯・子育て・教育・高齢者福祉などの分野では、地域で支え合いながら共に暮らしていく意義が見直されており、地域コミュニティの役割はますます重要視されています。

自治会を地域の中心に置きつつ、持続可能な新しい地域自治の枠組みを一刻も早く構築していく必要があります。

施策の方針

自治会間の情報交換などの機会をつくり、お互いが補完し合いながら地域のコミュニティ活動が拡大するよう、連携を促進します。

また、「住民・NPO・ボランティア団体・企業・行政」という多様な主体の参画による新しい協働の仕組みを創出、強化します。

511 地域コミュニティの自立支援

自治会が主体的に地域の課題解決に取り組めるよう、コミュニティ活動の情報提供とコミュニティ意識の高揚に努めます。また、その活動拠点となる施設や設備に対する支援も行います。

512 地域コミュニティの連携促進

自治会間の情報交換を行うなど相互に連携する機会の創出に努め、ネットワーク化された地域コミュニティの中で相互の活動が拡大（補完）するよう自治会間の連携促進に努めます。



現行計画の
関係個所抜粋

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・自治会、町内会活動推進交付金の交付による活動支援
- ・早島町地域コミュニティ活動推進事業補助金交付による自治会等地域団体によるコミュニティ活動の実施
- ・早島町地域集会所設置費補助金交付による活動拠点の機能促進
- ・コミュニティの活動を広報誌等で紹介
- ・自治会・行政連絡会議の開催（年3回）

【今後の方向性】

- ・連絡会議内で、自治会間での情報交換等を行う時間が不十分のため、そうした時間を確保していく。

⑤子育て環境

現状と課題

本町には私立保育所3園、公立幼稚園1園、児童館がありますが、私立保育園の1園には子育て支援センターを設置、児童館には留守家庭児童会とふれあいサポートセンターを併設するなど、家庭・ボランティア・行政が連携した子育て支援体制の整備に努めています。

一方で、共働きの増加や地域住民の高齢化などにより子育ての負担は今後とも増大が予想されることから、家庭と仕事の調和（ワーク・ライフ・バランス）、特に子育てと仕事を両立できる環境を実現するとともに、地域の子育てに多くの住民がかかわり、安心して支援を受けられる体制をつくっていく必要があります。

現行計画の
関係個所抜粋

施策の方針

子育てと仕事が両立できる環境、家庭と仕事の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向け、児童館や保育所の整備とあわせて各種保育サービスを柔軟に展開するとともに、ニーズに即した支援の体制づくりを家庭・地域・行政の連携のもとで進めます。

421 子育てのための経済的支援

小児の健康保持及び増進のため、小児医療費を助成し、育児の経済的負担を軽減します。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・ 中学校卒業までの医療費について、保険診療分の無償化を実施した。
- ・ これにより、医療費がかからないため病院を受診しやすく、病気の早期発見・治療も期待される。

【課題】

- ・ 町の負担の金額が年々増えている。

【今後の方向性】

- ・ 適正な受診を啓発し医療費を抑えることで、いつまでも安心して医療が受けられるよう取組む。

⑤子育て環境

422 子育てと仕事の両立支援

保育所や小規模保育所の開設など、増え続ける保育需要に対応する整備を進めるとともに、病児・病後児保育についての受け入れ態勢を関係機関に働きかけます。

また、児童の放課後の生活指導や保育・休日保育などにより、就労する保護者を支援するとともに、家庭と仕事の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する啓発を進めます。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・ 町内3園の保育園のほか、小学生には留守家庭児童会を開設し、就労する保護者を支援した。
- ・ 高梁川連携中枢都市圏事業でワークライフバランスの啓発事業を行った。
- ・ 幼稚園での4・5歳児給食実施した。保護者から、給食になり朝の準備時間にゆとりができたと大変好評である。
- ・ 幼稚園での預かり保育を実施した。

【課題】

- ・ 保育園に関しては需要が供給を上回り、待機児童の発生が常態化

【今後の方向性】

- ・ 待機児童の解消を目指す。
- ・ 病児・病後児保育等、多様な保育サービスのニーズに対応していくよう努める。
- ・ ワークライフバランスの啓発事業については、効果は見えにくいですが、今後も啓発に努めていく。
- ・ 幼稚園での預かり保育は、年々利用者が増加しているため、今後も支援員等の研修を行い支援の充実を目指す。

⑤子育て環境

423 地域の子育て支援の推進

ふれあいサポートセンターのお願い会員・おまかせ会員を募集し、登録者数を増やすことで支援体制の充実を図り、子育てを安心して行える環境づくりを進めます。
また、児童虐待の実態把握・防止に努めます。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・児童虐待については、妊娠期からハイリスク家庭を把握することで早期から関わり、状況把握や訪問等必要な支援につなげたケースもあった。また、関係機関と連携することで、被虐待児の状況を把握し、関係機関の要保護児童への認識も高まっていると考えられる。
- ・児童虐待について、妊娠期から出産後の母子保健事業等を通して、早期にハイリスク家庭を把握し、継続的に関わると共に、要保護児童対策地域協議会により、被虐待児等の要保護児童について関係機関と定期的に情報共有し、見守り体制を整えた。

【課題】

- ・関係機関や担当者によって、児童虐待への認識の差は感じられるため、児童虐待の早期発見や虐待予防について啓発を行っていく必要がある。

【今後の方向性】

- ・児童虐待については、ハイリスク家庭や支援が必要な母子が孤立しないよう、関係機関と連携しながら地域の見守り体制の強化を図る。

⑤子育て環境

423 母子の健康づくりの推進

乳幼児健診や育児に関する教室など各種母子保健事業をニーズに即した内容へと見直します。
また、関係機関と連携し、食育に関する取り組みを進めます。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

・乳児健診・保育相談は年12回、1歳6か月児健診・3歳児健診は年各4回、ベビママサロン①・②は年各6回、わんぱく広場は年4回実施している。
・健診での待ち時間短縮を図る・託児スペースを準備するなどして、保護者が参加しやすい相談・学びの場づくりや、育児不安が強い・家族サポートが少ないなど支援が必要な母子を確実に把握し、継続支援につなげるようスタッフ間の情報共有体制充実に努めている。
・食育の取り組みとしては、保育相談等の母子保健事業での栄養相談、ベビママサロン、わんぱく広場での離乳食・幼児食の啓発を行っている。保護者の養育能力や調理経験の変化により、きめ細かな支援が必要なケースも増加しているため、栄養相談では、それぞれの悩みや家庭に合ったアドバイスを心がけている。
・離乳食・幼児食作りでの困り感を持つ人も増加しており、ベビママサロン、わんぱく広場では、試食やフードモデルなどを活用し、分かりやすい啓発に努めた。
子どもの食生活は家庭の食生活が大きく影響することから、これらの母子保健事業では、子どもの食習慣だけでなく、保護者自身が食・生活習慣を整えることの大切さを伝え、保護者への食育も推進している。その他、町全体で食育が推進されるよう、木の実会親子クッキングにて食育講話の実施、栄養委員へ乳幼児期の栄養や手作りおやつの啓発などを行った。

【課題】

・相談することや交流関係づくりが得意でない保護者もいることから、相談しやすい・交流しやすい事業のあり方について検討していく必要がある。
・食育の面では、離乳食・幼児食作りに困っている人の増加や、幼児期のおやつに嗜好品を与える人がいること、食育に関心を持っていない人がいることが課題としてあがっており、保護者も含めた食育の推進が必要である。

【今後の方向性】

保護者が安心して子育てができ、子どもがすこやかに成長できるよう、利用者のニーズに合わせて柔軟な支援を行っていく。食育の面では、子どもたちが健全な心身を養えるよう、関係団体と連携しながら、離乳食・幼児食の啓発や家庭での食育の推進を引き続き行っていく。

⑥学校教育環境

現状と課題

本町では平成19年度から幼小中一貫教育に取り組んでおり、合同研修会や公開保育・授業を積極的に行うことで「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消や教職員間における情報共有・指導の連続性確保に一定の成果を出してきました。一貫教育を更に充実させるため、学習環境の整備について研究し、取り組んでいく必要があります。

有識者会議の協力を得て平成25年度に策定した「早島町学校教育ビジョン」では社会教育も含めた長期的な展望を示していますが、今後はその実現に向けた取り組みを具体化するとともに、地域や教育の場における共有、実践を進めていく必要があります。

また、地域の住民と協同し、はやしま学を実効的に進めるには、有償ボランティアを含め各種ボランティアを要請できる体制づくりと、はやしま学支援本部の充実を図っていくことが求められます。

現行計画の
関係個所抜粋

施策の方針

確かな学力を身につけ、さらに広い視野と高い志をもった子ども達の育成に向けて、小・中学校を一つの「はやしま学園」と位置付け一貫教育を推進するとともに、ICT機器や少人数学級など教育環境の充実を図ります。また、保育園・幼稚園・小学校・中学校の連携を推進します。

また、学校・園の結びつきを支える地域の住民が「はやしま学」とともに学びあい、“地域とつながり未来を拓く早島っ子”の育成に向け、全町民が協力しあえる環境をつくります。

311 教育環境の充実

35人以下の少人数学級（小学校）やタブレットPCをはじめとするICT機器など、充実した学習環境を整えることで、「個に応じた指導」と「活用する力の育成」の一層の充実を図ります。

また、特別な支援が必要な児童生徒に対して、専門指導員と支援員の配置を行い、個に応じた支援の充実を図ります。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・小中学校ともデジタル教科書を使用し、視覚的効果を高めるなど、授業の中でICT機器を積極的に活用している。
- ・小学校でのプログラミング教育実施に向けて、教職員研修の実施や情報教育推進に向けたリーダー研修を行った。
- ・小1グッドスタートとして、4月～12月まで支援員を配置している。また、特別支援学級には特別支援教育支援員を配置して、個に応じた支援を行っている。

【今後の方向性】

- ・小1プロブレムの解消のため、小1グッドスタートの継続した配置を行っていく。
- ・全児童生徒に、自学自習web教材の個人パスワードを渡し、家庭学習の充実を図っていく。

⑥学校教育環境

312 一貫・連携教育の推進

“地域とつながり未来を拓く早島っ子”というめざす子ども像を各校・園で共有し、連続性のある学習指導と教育支援の体制を構築し、学力の向上といじめ・不登校の解消を目指します。

また、「はやしま学園」の実現に向け、小・中学校の学校運営協議会を一体化し、計画・実施・評価を合同で行います。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・早島町ふれあい教室に週5日支援員を配置し、不登校児童生徒の生活リズム改善や学校への登校を促している。
- ・小学校に登校支援員2名、中学校に心の教室支援員を1名配置し、登校や学習のサポートを行っている。
- ・いじめや長期欠席・不登校の解消に向けて、学校園がチームとして情報交換を行い、効果的な支援について共有している。
- ・学校運営協議会を年6回実施し、学校教育ビジョンの取り組みや児童生徒の居場所づくりなどについて、意見交換を行っている。
- ・学校運営協議会では、幼小中共通の評価項目を作成し、一貫教育の視点から学校運営の改善につなげることができた。

【課題】

- ・中学校では、支援体制の充実を図っているが、長期欠席・不登校生徒が増加している。

【今後の方向性】

- ・学びの質や深まりに焦点を当て、各教科・総合的な学習の時間等において、児童生徒がより主体的に学習に取り組むことができるよう授業改善を行っていく。
- ・長期欠席・不登校の未然防止に向けて、支援体制や情報連携を充実させ、誰もが相談しやすい体制づくりを行う。
- ・はやしま学園運営協議会では、年2回の評価を行うことで、さらなる学校運営の改善につなげていく。

⑥学校教育環境

313 地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり

地域との結びつきを強め、子どもたちの地域への帰属意識や愛着、地域福祉の心を育む「はやしま学」を学校内外の教育活動に位置づけるため、社会教育と連携して「はやしま学支援本部」を中心に据えた体制を構築します。

現行計画の
関係施策抜粋

【取組】

- ・教育支援コーディネーターを中心に、放課後・土曜はやしま塾、土曜英会話塾などを企画運営し、学校外での学びの場を提供した。
- ・「子ども議会」「子どもと大人の熟議」「はやしま子どもフォーラム」「早島英語暗唱大会」「中学生だっぴ」「早島English Day」等を活用し、社会に開かれた学びの場づくりを積極的に推進した。
- ・これにより、特に中学1年生を対象に生き方を考える「だっぴ」の開催や2年生対象に留学生との交流「English Day」を開催することで、生徒の意識変容が見られた。また、英語暗唱コンテストを開催することで、年々英語力が上がっているとの評価を得ている。
- ・子ども議会、子どもフォーラムなど、園児・児童・生徒の地域提案を発信する場づくりは地域の方に大変好評であり、学校を応援してくださる方が増加した。
- ・中学生が「ボランティア・パスポート」を活用し、地域行事への積極的な参加を促した。
- ・はやしま学協働本部を中心とし、学校、地域の協力を得ながら、土曜日・放課後・長期休業日を利用し、はやしま塾、ロゲイニング、国際塾、英会話塾、夏休み体験教室等の事業を行い、補充学習や発展学習、体験学習など魅力ある講座を充実した。
- ・はやしま学の各事業で、地域の方や教職員等がスタッフ・講師として参加するなど、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築が進んだ。

【課題】

事業数と参加人数の増加に伴い、指導方法の改善やスタッフの確保が課題となっている。

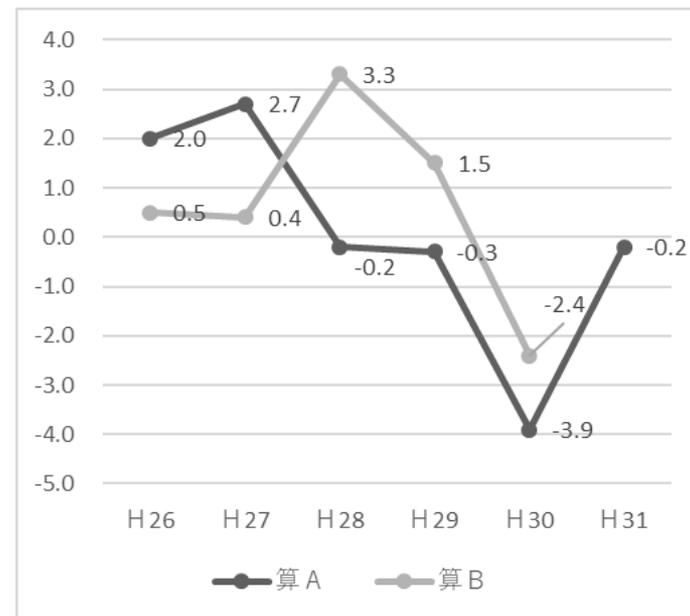
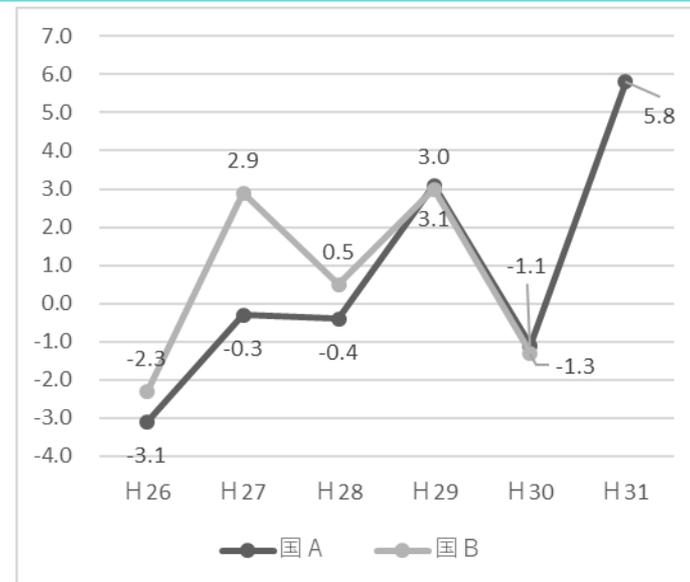
【今後の方向性】

- ・保幼小中の一貫した教育を推進し、地域への発信をより一層充実させていく。
- ・学校や地域のニーズに見合った、より効果のある事業を精査していく。

⑥学校教育環境

■関連指標

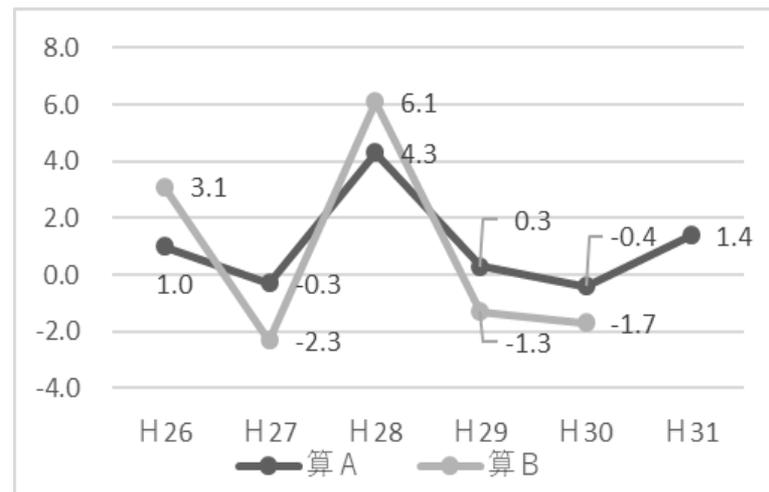
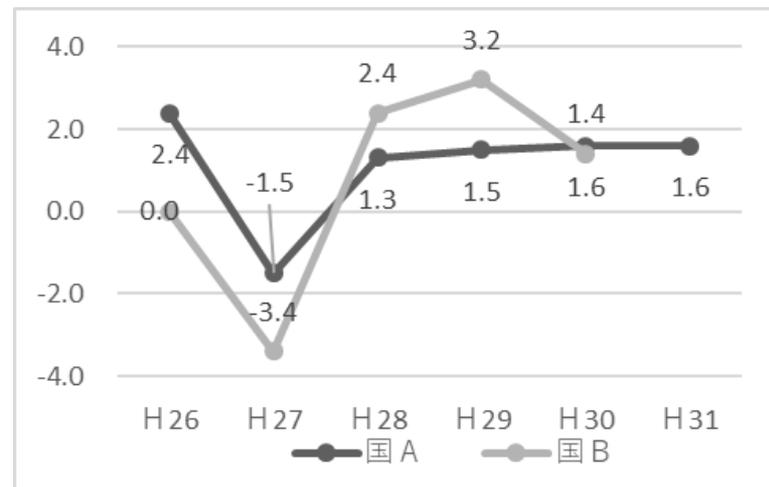
データの名称 (単位) 【実績値 (年度)】	望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考						
□ 全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国との差 (%) 【小6：国A-3.1、国B-2.3、算A+0.2、算B+0.5(H26)】 【中3：国A+2.4、国B±0.0、数A+1.0、数B+3.1(H26)】	上昇	全国学力・学習状況調査								
年度別実績値										
基準値	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		評価	
小6										
国A	-3.1	-3.1	-0.3	-0.4	3.1	-1.1	5.8	-		○
国B	-2.3	-2.3	2.9	0.5	3.0	-1.3	-	-		○
算A	+0.2	2.0	2.7	-0.2	-0.3	-3.9	-0.2	-		△
算B	+0.5	0.5	0.4	3.3	1.5	-2.4	-	-		△



⑥ 学校教育環境

■ 関連指標

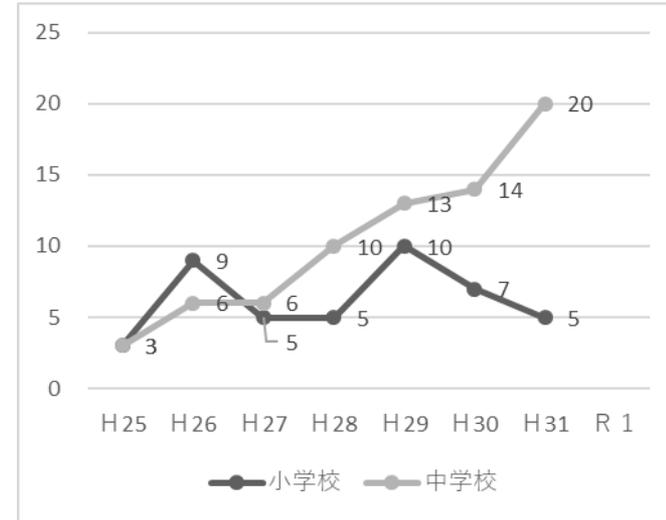
データの名称（単位）【実績値（年度）】					望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考	
□ 全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国との差（％） 【小6：国A-3.1、国B-2.3、算A+0.2、算B+0.5(H26)】 【中3：国A+2.4、国B±0.0、数A+1.0、数B+3.1(H26)】					上昇	全国学力・学習状況調査			
国A +2.4	2.4	-1.5	1.3	1.5	1.6	1.6			△
国B 0	0.0	-3.4	2.4	3.2	1.4				○
算A +1.0	1.0	-0.3	4.3	0.3	-0.4	1.4			○
算B +3.1	3.1	-2.3	6.1	-1.3	-1.7				△



⑥学校教育環境

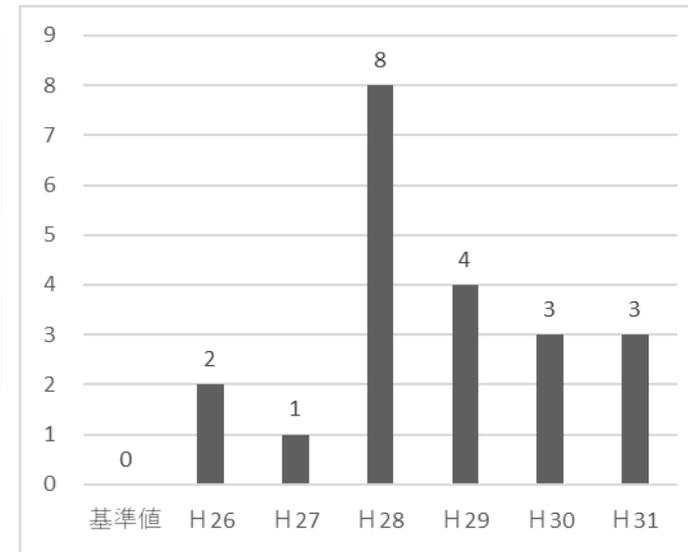
■関連指標

データの名称（単位）【実績値（年度）】					望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考	
不登校児童・生徒数（人）【小学校：3(H25)、中学校：3(H25)】					減少	問題行動調査			
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		評価
小学校 3	9	5	5	10	7	5	—		△
中学校 3	6	6	10	13	14	20	—		△



※不登校数増の要因としては、不登校の定義が明確となり、今までは計上していなかった生徒も対象となったことが挙げられる。

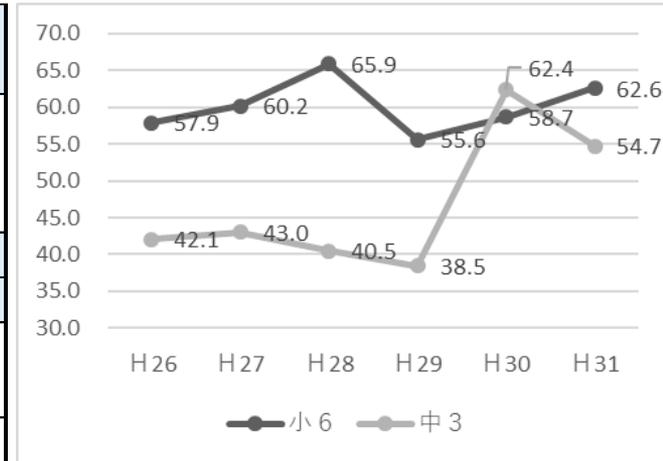
データの名称（単位）【実績値（年度）】						実績値引用元	実績値基準日	備考	
児童・生徒の問題行動件数（件）【小学校：0(H25)、中学校：0(H25)】					横ばい	問題行動調査			
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		評価
0	2	1	8	4	3	3	—		△



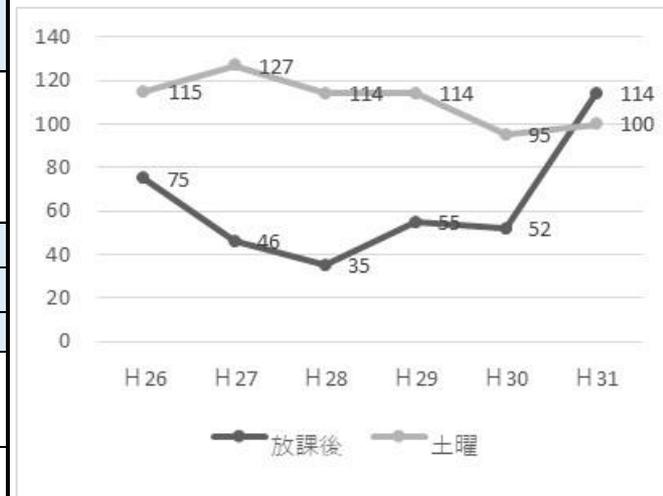
⑥学校教育環境

■関連指標

データの名称（単位）【実績値（年度）】		望ましい 変化	実績値 引用元	実績値 基準日	備考				
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合（％）【小6：57.9(H26)、中3：42.1(H26)】		増加	全国学力 学習状況 調査						
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	評価	
小6 57.9	57.9	60.2	65.9	55.6	58.7	62.6	—	○	
中3 42.1	42.1	43.0	40.5	38.5	62.4	54.7	—	○	



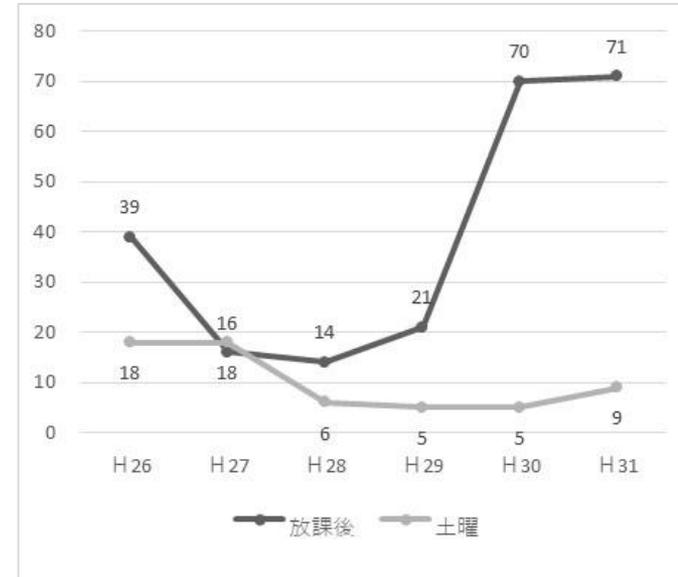
データの名称（単位）【実績値（年度）】		望ましい 変化	実績値 引用元	実績値 基準日	備考				
はやしま塾の参加児童・生徒数（人） 【[放課後]小：75、中39(H26) [土曜]小：115、中：18(H26)】		増加	はやしま 塾出席者 名簿						
年度別実績値									
基準値	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	評価	
小学生									
放課後 75	75	46	35	55	52	114	—	○	
土曜 115	115	127	114	114	95	100	—	△	



⑥学校教育環境

■関連指標

データの名称（単位）【実績値（年度）】					望ましい変化	実績値引用元	実績値基準日	備考	
はやしま塾の参加児童・生徒数（人） 【[放課後]小：75、中39(H26) [土曜]小：115、中：18(H26)】					増加	はやしま塾出席者名簿			
年度別実績値									
基準値	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	R 2		評価
中学生									
放課後 39	39	16	14	21	70	71	—		○
土曜 18	18	18	6	5	5	9	—		△



※はやしま塾とは
小学生、中学生を対象とした無料の学習塾で、水・金曜日の放課後と土曜日に行っている。

課題に関する施策の今後の方向性について

①道路の整備と交通安全の確保

- **通過交通対策**として、都市計画道路などの整備を進めていく。
- **狭隘道路**については、整備が可能な箇所から順次、計画的に進めていく。
- 交通マナー向上のため、関係機関と連携し、**交通安全の啓発**をしていく。
- **小学生への交通安全教室**を実施することにより、交通ルールやマナーを学んでもらう。
- **通学路点検**を引き続き行い、順次改善していくことにより、交通事故のリスクを減らすよう努める。

→一定程度の対策は行ってきており、引き続き施策を進めていく。時間はかかるが、都市計画道路の整備が進めば、通過交通車両などの解消が期待できると思われる。

②子どもの遊び場の確保

- **自治会への遊具等の整備補助**を実施していく。
- 引き続き、**維持管理**を行い利用促進を促す。

→今後も計画的に維持管理をしていく。子どもの遊び場については、年齢によってすみわけを行うことで利用してもらうように再検討していく。

課題に関する施策の今後の方向性について

③利用しやすい公共交通の整備

- **バリアフリー化を含めた早島駅の拠点整備化**の検討を進めていく。
- コミュニティバスについては、ダイヤ変更や運行経路変更などにより、高齢者等**交通弱者のニーズに応じたもの**とする。

→バリアフリー化を含めた早島駅の拠点整備化については、多額の予算が必要となるが、第5次総合計画の目玉事業として進めていく。

④住民自治の強化

- 補助金等の交付により、引き続き自治会、町内会の活動推進を図る。
- 引き続き自治会・行政連絡会議を実施し、**情報交換等できる場を確保**する。

→今後人口増が見込まれる中で、住民自治の強化に向け、新旧町民が協力して活動に取り組めるような環境づくりが必要となるため、行政としてサポートできることを実施する。

課題に関する施策の今後の方向性について

⑤子育て環境

- 中学校卒業までの医療費無償化や、幼稚園での給食、預かりなど、子育て環境の改善に向け、非常に多くの取組を手厚く行っている。
- 保育園でも1園増やし、待機児童対策をしているが、想定を超える人口増加により、解消には至っておらず、今後も増加傾向が続くと思われる。

→子育て環境については、様々な取組を行っており、現状の取組を引き続き行う。喫緊の課題は人口増の対応であり、待機児童解消等に注力すべきと考えられる。

⑥学校教育環境

- 教育環境の充実に向け、ICT機器の導入や少人数学級、一貫、連携教育など多くの取組を行っている。
- 多くの教科で学力の向上がみられる。

→学校教育環境については、現状の取組を進めていく。課題として人口増の対応があり、特に小学校における対応は急務と考えられる。

⑦流通産業の振興

現状と課題

本町の北部丘陵地にある岡山県総合流通センターや民間流通業務団地には多くの流通関連企業が進出していますが、中四国の広域交通の結節点という本町の恵まれた立地条件をいかし、さらにまちの活性化を図るため、早島インターチェンジ周辺に流通関連企業の集積を図ることが求められています。

また、平成2年に供用開始した岡山県総合流通センターや民間流通業務団地には各種規制が堅持されており、近年の流通業界の動向やニーズなどを踏まえた時代に即した流通業務団地の形成も求められています。

流通業務団地の企業に目を向けますと、立地する企業の殆どが全国展開している企業のため、町や町民との交流は希薄で、お互いが“我が町”“地元企業”として愛着や誇りを抱く関係にはなっていません。

今後は、交流などを通じ関係を強化することで、立地企業の関連企業の進出を促し、新たな財源の確保に向け流通産業の振興を図る必要があります。

現行計画の
関係個所抜粋

施策の方針

早島インターチェンジが持つ発展可能性を最大限発揮できる土地利用を検討し、周辺環境への影響に配慮した上で、土地利用の転換を図ります。既存流通業務団地内における各種規制について他県の流通業務団地なども参考にした再検証を行い、周辺環境への影響に配慮した上で、企業が活動しやすい操業環境の実現を目指します。

また、流通関連企業や町内に立地する企業を地域の一員としてとらえ、交流を促進しながら相互の連携を図り、本町の産業基盤の強化を図ります。

141 新たな産業拠点の形成

既存の流通業務団地とあわせ流通業務系まちづくりの基盤となる新たな産業拠点の形成を図るため、早島インターチェンジ周辺において、従業員やその家族の生活環境なども含めた流通関連企業の集積を可能とする土地利用の規制・誘導方針を、周辺環境への影響に配慮した上で定めます。

現行計画の
関係施策抜粋

⑦流通産業の振興

【取組】

- ・早島インターチェンジ周辺は市街化調整区域であり、計画的な土地利用を誘導するなどバランスの取れた土地利用の実現を目指すために、平成27年度に市街化調整区域の地区計画運用指針を策定した。
- ・早島インターチェンジ西側については、計画的な産業集積を図るために、新産業地区土地利用計画を策定した。
- ・これにより金田・下野地区で地区計画による開発が進み、新産業地として形成が図られている。

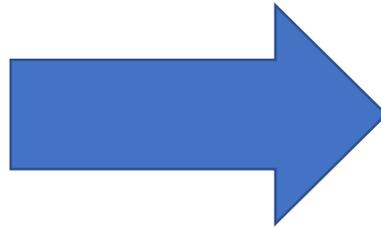
【課題】

- ・早島インターチェンジ西側については企業の進出が著しいが、住工混在であるため、周辺環境との調和を図る必要がある。

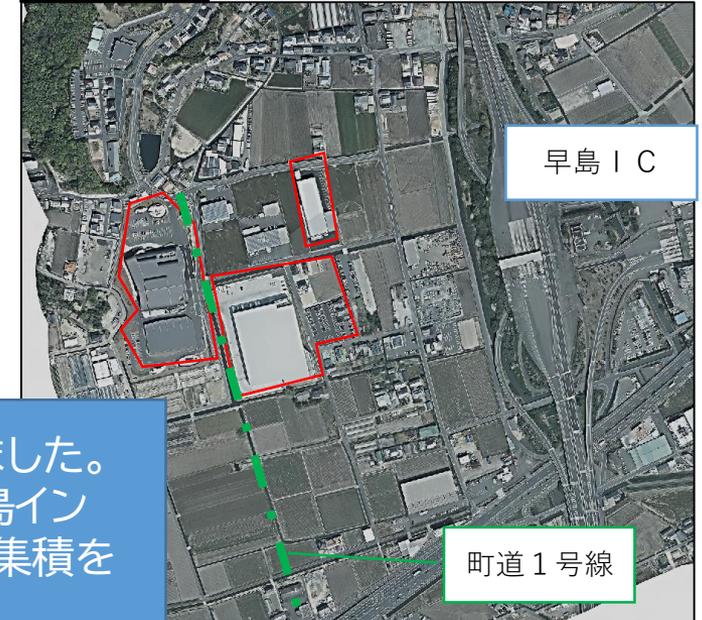
【今後の方向性】

- ・金田・下野地区の東側、南側に地区計画による企業進出が予定されており、新産業地区土地利用計画に基づき、早島インターチェンジ周辺や国道2号などの立地特性及び民間の活力を活かしながら計画的に良好な業務地を形成する。

H27



R2



現行計画期間で企業の立地が進みました。
今後も町道1号線を整備を進め、早島インターチェンジ周辺へ流通関係企業の集積を図ります。

町道1号線

⑧ 社会教育の充実（図書館）

- ・平成26年4月～高梁川流域図書館相互利用サービス開始
- ・平成29年11月～岡山連携中枢都市圏図書館相互サービス利用開始
- ・これにより、倉敷市、岡山市といった町外の人々の図書館利用が増加
- ・図書館利用に伴い、図書館でのイベントを知り、参加する町外の人が増加
- ・早島の図書館が気に入り、早島町に転居する人もいる

図書館 1階



図書館 2階

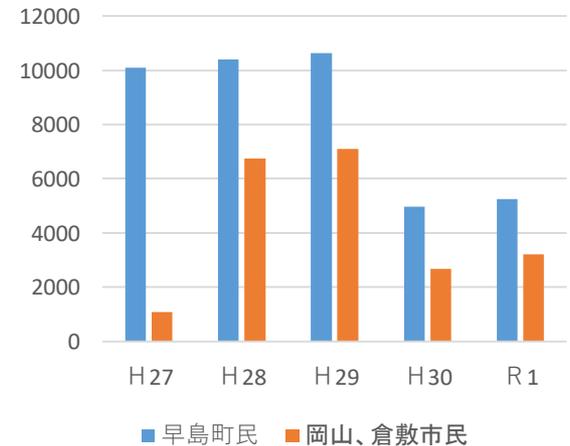


古典文学講座
万葉集について



① 図書館登録者数(4月1日現在) * 累計 【人】

対象	H27	H28	H29	H30	R1
早島町民	10,100	10,401	10,632	4,976	5,249
岡山、倉敷市民	1,070	6,745	7,090	2,681	3,202
内岡山市民			83	263	436
内倉敷市民	1,070	6,745	7,007	2,418	2,766
合計	11,170	17,146	17,722	7,657	8,451



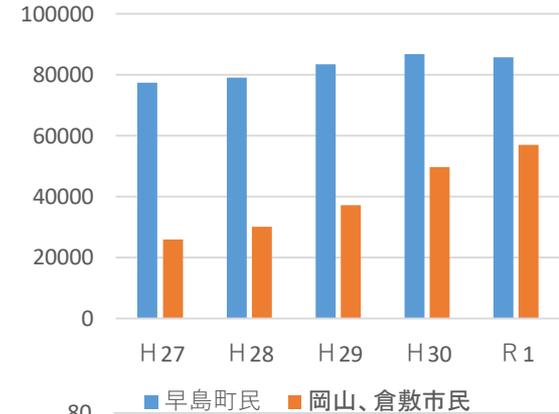
*早島町民には在勤・在学者含む
*平成30年度に5年以上利用のない登録者を除籍

⑧ 社会教育の充実 (図書館)

② 図書館貸出数(年度)

【冊】

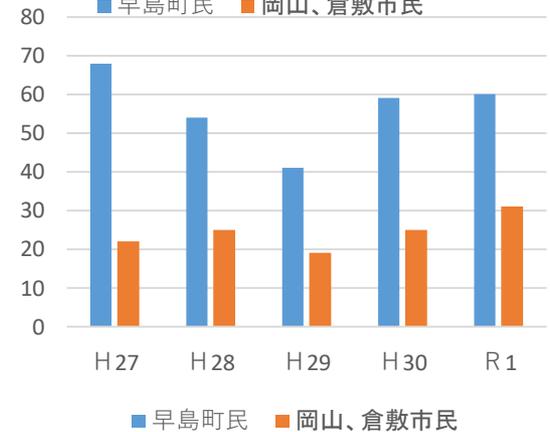
対象	H27	H28	H29	H30	R1
早島町民	77,383	79,084	83,402	86,734	85,729
岡山、倉敷市民	25,897	30,025	37,108	49,777	57,008
内岡山市民			1,441	7,034	12,749
内倉敷市民	25,897	30,025	35,667	42,743	44,259
合計	103,280	109,109	120,510	136,511	142,737



③ イベント参加者数(年度)

図書リサイクル市 【人】

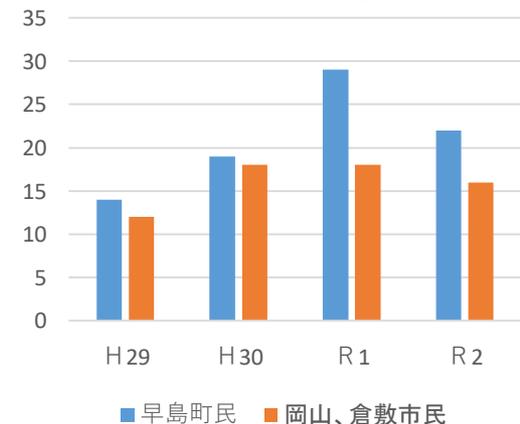
対象	H27	H28	H29	H30	R1
早島町民	68	54	41	59	60
岡山、倉敷市民	22	25	19	25	31
内岡山市民	-	-	2	6	6
内倉敷市民	22	25	17	19	25
合計	90	79	60	84	91



④ イベント参加者数(年度)

古典文学講座 【人】

対象	H27	H28	H29	H30	R1	R2
早島町民			14	19	29	22
岡山、倉敷市民	0	0	12	18	18	16
内岡山市民			9	6	7	6
内倉敷市民			3	12	11	10
合計			26	37	47	38



⑧社会教育の充実（文化ホール）

- ・ 556人収容（車いす席5席含）のホールで平成10年より供用開始
- ・ 最後列の席でも舞台の人の顔が見える程よい広さで人気がある
- ・ 立地も良く、無料で駐車場が利用可能なことから、稼働率が高い
- ・ 保育園（町内外から）の発表会からプロのアーティストまで幅広く利用されている

ゆるびの舎文化ホールの稼働率

	使用日数(A)	使用可能日数(B)	稼働率(A÷B)	ホール・楽屋 (利用人数)	備考
平成29年度	210	273	76.9%	31,315	
平成30年度	203	273	74.4%	29,979	西日本豪雨災害



近隣施設等のホール稼働状況（平成30年度）

	施設名・規模等	ホール稼働率
全国	町村等（平均）	48.5%
	500席～1,000席未満（平均）	55.0%
倉敷市	児島市民交流センター（292席）	51.0%
	玉島市民交流センター（360席）	62.0%
	倉敷市芸文館（890席）	79.3%
里庄町	里庄総合文化ホール（1000席）	10.0%
矢掛町	やかげ文化センター（592～754席）	11.0%



良好な結果が得られた施策の今後の方向性について

⑦流通産業の振興

- ・地区計画策定により、早島インターチェンジ周辺へ流通関係企業の一層の集積を図る。

→10年以上の長い期間で考えれば、流通関係企業以外の誘致なども必要となるか。

⑧社会教育の充実

- ・引き続き図書館や文化ホールを拠点とした社会教育施策を充実させることにより、町民の文化、教養を高めていくとともに、町外からの定住者や関係人口※創出につなげていく。

→どういった観点・施策が必要となるか。

※関係人口創出は国が進めている施策の一つで、関係人口とは特定の地域に継続的に多様な形でかかわる人（観光以上移住未満の人）とされている。例えばイベントの運営に参画して楽しむ、ふるさと納税をしながら地域のイベントに参画するなどさまざまな形態がある。